

# 《元祖》——丁革命のエトセトラ

神戸学院大学 経営学部教授  
**松田 裕之**  
 Horoyuki Matsuda

**私**は労務管理が専門なのですが、ここ数年は「情報通信（IT）革命の原風景」をテーマに、電信や電話の発展をめぐる物語を執筆しています。今回はその中から面白そうな話題を二、三ピックアップしてみましょう。

まずは、電信士という仕事。彼らはどんな情報も、サミュエル・モールスという人が1844年に世に送った短符（・）と長符（—）の組み合わせ符号に変換してやりとりします。いま私たちが日常使っているコンピュータのプログラムは「0」と「1」の組み合わせからできています。とすると、モールス符号を扱う電信士は、「0」と「1」を操るプログラマーやSE



のご先祖様にあたる、ともいえます。

ついでながら、今日のインターネットにヒントを与えたのは、何を隠そう、19世紀末の世界をつないだモールス電信網だから、電信士は《元祖》インターネットを紹介して最新の情報を真っ先に入手できる史上初の「ネチズン」でもありました。この役得を生かして、成功を手に入れた人物もいます。世界屈指の音楽ホールにその名を残す鉄鋼王アンドルー・カーネギーや、我が国でも人気が高い発明王トーマス・エジソンは若い頃に電信士をしていました。

さて、この電信を応用し、アメリカの音声言語学者グラハム・ベルが1876年に開発した通信手段が電話です。しかし、昔の電話はいまのような直通方式ではなく、電話局に陣取る交換手が顧客同士の回線をつなぐ間接通話方式。実はこの交換手という仕事、いわゆる女性職の草分けの一つで、女性の社会進出を考えた上でとても興味深い事例です。

19世紀末の価値観において、家庭で家事・育児・老親の世話が役割とされていた女性は、通話交換を依頼する顧客に対して丁寧に対応することができました。というのも、通話交換は「声による接客」という面を持つていたからです。この交

換手と並んで、看護士、教師、事務員、窓口対応、小売店員など19世紀末から女性に門戸を開いた職業は、女性が家庭で求められた役割、つまり「愛と癒し」をそのまま家庭外で再現できるものでした。



こう言うと、女性蔑視だと批判されるかもしれませんが、むしろ「愛と癒し」という強みを楔として、男の世界であった職業空間に足場を築き、今日の男女平等をもたらした幾多の女性たちの足跡にこそ敬意を払うべきでしょう。

このように、歴史は私たちが問いかけることによつて、より深くも、より豊かにも答えてくれます。過去と真剣に、しかし楽しみをもつて対話すること。それによつて、現実の問題を認識する糧とする——その一助となるように、執筆に際してはできるだけ平易な表現を心がけています。語り口はいかなる研究を志す者にとつても必須の技能で、これを鍛錬することに怠惰であつてはならない、というのが語り部としての私の自戒でもあります。

【興味を持たれた方に】

今回紹介したエピソードやトリアビは、既刊の『電話時代を拓いた女たち』『明治電話電信ものがたり』『通信技術の歩いた近代』（以上、日本経済評論社）、「ドレスを着た電信士マ・カイリー」（朱鳥社）に入っています。いずれも朝日新聞、日本経済新聞、高知新聞、サンデー毎日、日経コンピュータなどで紹介されました。また、今春には『電信士のアメリカ史』（日本経済評論社）を刊行、それと同時に、昨今問題となっている「格差」を取りあげた「格差・貧困・無縁のきた道」（朱鳥社）も出ます。書店でお手にとつて頂ければ幸いです。

※バックナンバーは、本学ホームページ（デジタル広報誌）でご覧下さい。



## 神戸学院大学

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>

法学部 経済学部 経営学部 人文学部 総合コミュニケーション学部 栄養学部 薬学部

有瀬キャンパス 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL:078-974-1551(代)  
 ポートアイランドキャンパス 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 TEL:078-974-1551(代)  
 長田キャンパス(法科大学院) 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 TEL:078-691-4888(代)